

水循環に関する国際的な取組について

内閣官房 水循環政策本部事務局
令和5年9月



水循環ロゴマーク

国連水会議2023等において日本が水の強靱化の議論を主導

— 上川陽子総理特使が出席 —

- **国連水会議2023は、46年ぶりに水に特化して開催された国連会議。**
 - ・約200の国・地域・機関から**首脳級20人・閣僚級120人**を含む6,700人以上が参加。
 - ・5つあるテーマ別討議の1つ(「**気候、強靱性、環境に関する水**」)で、エジプトと共に**共同議長を務めた**
- その他、国連本部で4年ぶりに対面で開催された「**第6回国連水と災害に関する特別会合**」にも参画。

1. 第6回国連水と災害に関する特別会合

(2023年3月21日)

- ・全体会合で天皇陛下による基調講演(ビデオ)が行われた。
- ・また、上川総理特使(水制度改革議連代表)はハイレベルパネルディスカッションにて、世界の水防災への日本の貢献を発信した。

2. 国連水会議2023 (2023年3月22~24日)

(1) 全体討議 (3月23日)

- ・195(主催者発表)の参加国・機関等による演説が行われた。
- ・上川総理特使は、日本政府を代表して地元静岡県の取り組みも紹介しつつ、気候変動による将来の変化を意識した「バックキャストिंग」、グリーン/グレイインフラのバランスなどの重要性を指摘。
- ・日本のコミットメントとして「熊本水イニシアティブ」により技術面、財政面の両方で世界の水問題に貢献していくことを表明。

(2) テーマ別討議3「気候、強靱性、環境に関する水」

(3月23日)

- ・5つあるテーマ別討議のうち3番目の討議「気候、強靱性、環境に関する水」の**共同議長を、エジプトとともに務めた。**
- ・共同議長として、多様な水災害の解決に向けた行動プロセスである「アクション・ワークフロー」を提案し、40を超える国と国際機関等から表明された様々な課題、対策、提案を、実際の行動や課題解決につながる形で提言をとりまとめた。



第6回国連水と災害特別会合における
天皇陛下御講演(ビデオ)



国連水会議 全体討議における
上川総理特使ステートメント



国連水会議テーマ別討議3
上川総理特使による共同議長



国連水会議 テーマ別討議3共同議長
(エジプト)と上川総理特使

2

2

熊本水イニシアティブ(概要)

- 令和4年4月に熊本市で開催された、第4回アジア・太平洋水サミットの首脳級会合において、岸田総理大臣より、「熊本水イニシアティブ」を発表。

【第4回アジア・太平洋水サミット】熊本水イニシアティブ(概要)

－「新しい資本主義」に基づく「質の高いインフラ」整備への積極的な貢献－

我が国は、アジア太平洋地域における水を巡る社会課題に対し、**官民協働**により、**デジタル化やイノベーション**を活用して、**社会課題の解決を成長エンジン**とし、持続可能な発展と強靱な社会経済の形成につなげていく「**新しい資本主義**」に基づき、我が国の先進技術を活用した「**質の高いインフラ**」整備等を通じて、積極的に貢献する。

1. 気候変動適応策・緩和策両面での取組の推進

(1) 「質の高いインフラ」の整備推進

- ダム、下水道、農業用施設等による、流域治水を通じた水害被害軽減（適応策）と、温室効果ガスの削減（緩和策）を両立できる**ハイブリッド技術**の開発・供与
（ダム：既存ダムの運用改善や改造により、早期に効果発現）
- 官民協働による「質の高いインフラ」の導入提案

(2) 観測データの補完への貢献

- 気象衛星（ひまわり）、陸域観測技術衛星2号（だいち2号）、全球降水観測計画（GPM）主衛星等の**衛星データ**供与

(3) ガバナンス（制度・人材・能力）への貢献

- AI/IoT等での**予測・解析技術**等による**水害リスク評価**の高度化
- アジア太平洋気候変動適応情報プラットフォーム（AP-PLAT）やデータ統合・解析システム（DIAS）を通じた**人材育成**等への支援

(4) 二国間クレジット制度（JCM）の活用・拡大

2. 基礎的生活環境の改善等に向けた取組の推進

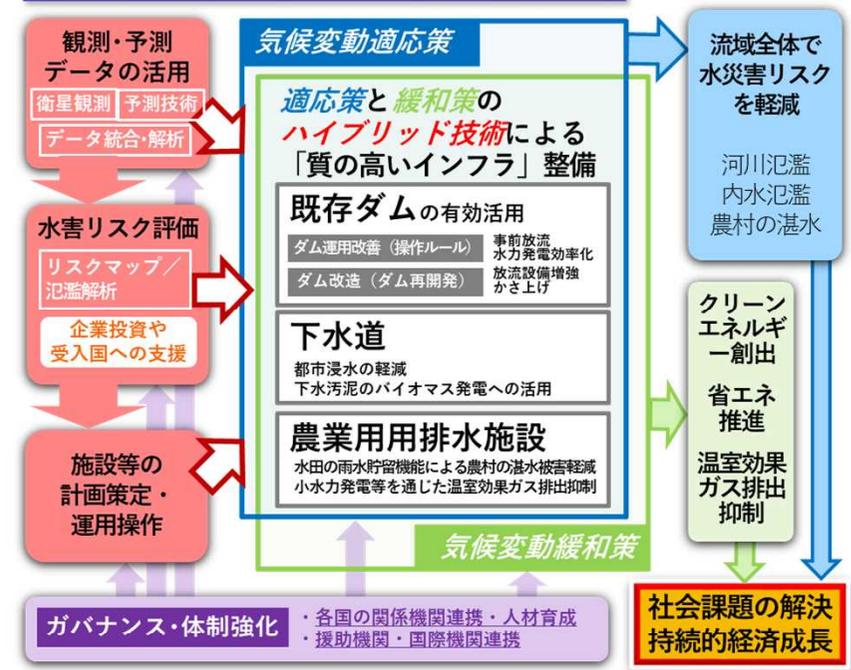
(1) 「質の高い水供給」の整備推進

- IoT技術等の先進技術導入等による水道施設整備等の推進

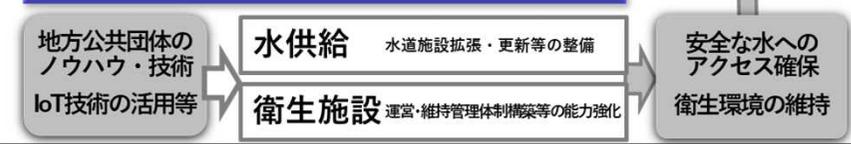
(2) 「質の高い衛生施設」の整備促進

- 下水道や分散型衛生施設等を整備し、**運営能力強化**等を推進

1. 気候変動適応策・緩和策両面での取組の推進



2. 基礎的生活環境の改善等に向けた取組の推進



今後5年間で約5,000億円の支援を実施

【参考】テーマ別討議3「気候、強靱性、環境に関する水」の共同議長提言

(日本語要旨)

◆水問題の多面性と健全な水循環

- 水、食料、エネルギー、生態系は相互につながっており、健全な水循環の維持・回復を通じた水問題の解決が他の問題解決にも寄与
- COP27の成果である「損失と損害（ロス&ダメージ）」の実現に向けた行動

◆科学技術の有効活用、関係者連携、資金確保

- 科学技術に基づいた信頼できるデータ・リスク評価の提供及び情報の見える化
- 気候変動適応策・緩和策両面に資するマルチベネフィットの取組、グリーンインフラとグレーインフラの調和
- 生態系勘定等の手法も用い、金融市場の支持も得た効果的な資金調達
- 正確な観測・予測に基づく早期警戒システムの整備・運営

◆統合的なアプローチ

- 行政と市民が防災の自覚を高め、備えと情報共有の強化
- 統合水資源管理と他のアプローチ（防災や生態系保全など）との連携
- マルチステークホルダーの連携・協力を促進する協議会等の設立と行政の支援
- ファシリテーター（現場で幅広い知見を用いて問題解決に導く人材）等の人材育成
- 観測、モデリング、データ統合に焦点を当てた学際的な「知の統合」の促進

水問題に対処するためのコミットメント

- 気候変動・生態系等の締約国会議を統合的に運用する「Inter-COP」の追求
- 「地球規模水情報システム」の整備
- 「アクション・ワークフロー」に沿って現場の多様な環境に即した課題解決を提案

世界水フォーラム(WWF)

- 世界中の水に関する関係者が一堂に集い、水と衛生に関わる様々な問題への対処について議論を行う世界水フォーラムの第10回目がインドネシアで開催予定。(2015年に韓国で開催された第7回世界水フォーラムぶりとなるアジアでの開催。)
- 第10回世界水フォーラムへの参加を通じて、健全な水循環の重要性等を発信していく予定。

【世界水フォーラム概要】

- 主催者：世界水会議 (WWC) ※
- 参加者：各国元首・閣僚級を含む政府機関、国際機関・企業・NPO等
- 3年に1度、世界水の日(3月22日)前後に開催
- 世界中の水に関する関係者が一堂に集い、水と衛生に関わる様々な問題への対処について議論。第3回の日本開催を契機に参加国数、参加者数が増え、注目度が高まった。

※世界水会議(水分野の専門家や国際機関の主導のもと1996年に設立された国際NGO)



天皇陛下による
ビデオメッセージ
(第9回)

【開催状況(開催地・参加国・参加者数) (主催者発表)

第1回 (1997)	モロッコ	63カ国	500人
第2回 (2000)	オランダ	114カ国	5700人
第3回 (2003)	日本	183カ国	24000人
第4回 (2006)	メキシコ	168カ国	19700人
第5回 (2009)	トルコ	192カ国	30000人
第6回 (2012)	フランス	173カ国	35000人
第7回 (2015)	韓国	168カ国	40000人
第8回 (2018)	ブラジル	172カ国	10000人
第9回 (2022)	セネガル	(未発表)	

第10回(2024) インドネシア

【第10回世界水フォーラム 於 インドネシア】

- 期間：2024年5月18日(土)～5月24日(金)
- 主催：世界水会議、インドネシア政府
- 開催地：インドネシア バリ島(バリ・ヌサドゥア・コンベンションセンター)
- テーマ：Water for Shared Prosperity
- 主要プロセス：テーマ別プロセス、地域別プロセス、政治的プロセスの3つの主要なプロセスでセッション等を開催予定

テーマ別プロセスでは、以下の6つのテーマを設定

- ① 水の安全保障と繁栄 (Water Security and Prosperity)
- ② 人類と自然のための水 (Water for Humans and Nature)
- ③ 災害リスクの軽減と管理 (Disaster Risk Reduction and Management)
- ④ 協力と水力外交 (Cooperation and Hydro-diplomacy)
- ⑤ 水の革新的なファイナンス (Water Innovative Finance)
- ⑥ 知識とイノベーション (Knowledge and Innovation)

